

令和4年度第5回資源評価結果説明会
(トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群、ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群、サワラ日本海・東シナ海系群)の開催について

1. 趣旨

本年3月に閣議決定された新たな水産基本計画においては、「海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施」を柱の1つとし、水産改革に基づく新たな水産資源管理の着実な実施を図るため、ロードマップに従い、資源調査・評価体制の整備を進めるとともに、漁業者をはじめとした関係者の理解と協力を得た上で、科学的知見に基づいて新たな資源管理を推進することとしている。

令和2年12月に施行された改正漁業法では、資源管理はTAC（漁獲可能量）による管理を基本とし、ロードマップにおいて、令和5年度までに漁獲量ベースで8割をTAC管理とすることを目標に掲げ、漁獲量が多いもののうち、MSYベースの資源評価が実施される見込みのものについて、順次TAC管理の検討を開始している。

しかしながら、これまでに開催された資源管理手法検討部会や資源管理方針に関する検討会（ステークスホルダー会合）において、参加者から科学的な資源評価の内容が難しく、なかなか理解できないとの声があげられているところである。

これを踏まえ、漁業者をはじめとする関係者からの資源評価に対する理解促進と信頼性の向上を図るため、新たにMSYベースの資源評価結果が公表された後、資源管理手法検討部会の開催までの期間に、公開で研究機関からの資源評価結果の説明や意見交換を行うこととする。

2. 開催方法

(1) 開催時期・場所

MSYベースの資源評価結果が最初に公表された後、資源管理手法検討部会に先だって開催する。Webによるオンライン開催又はオンラインを併用した現地開催とする。

(2) 内容

資源評価結果の説明と今後の資源管理の議論のために必要な科学的な検討事項を整理する。

新たな資源管理の検討プロセスについて

①	資源評価結果の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ MSYベースの資源評価結果の公表
②	資源評価結果説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①で示された資源評価結果を丁寧に説明 ・ ③、④の議論を進めるために必要な科学的な検討の抽出
③	資源管理手法検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な範囲で、②で受けた科学的な検討内容を回答 ・ 参考人等からの意見や論点を整理 ・ 具体的な資源管理を議論するに当たっての課題をとりまとめ
④	資源管理方針に関する検討会 (ステークホルダー一会合)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②と③で受けた科学的な検討内容を回答 ・ ③で整理された論点や意見を踏まえ、具体的な管理について議論 ・ 必要に応じ複数回開催し、管理の方向性をとりまとめ
⑤	水産政策審議会 (資源管理分科会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ④でとりまとめられた内容を基に資源管理基本方針の案を作成 ・ パブリック・コメントを実施した後、水産政策審議会資源管理分科会への諮問・答申を経て決定。
⑥	管理の開始	

本日はここ